



# 「ヒバクシャ国際署名」の大飛躍を!

2020年はもう始まっている!



2019年原水爆禁止世界大会は、8月3～5日の国際会議、6日の広島デー集会、7～9日の世界大会長崎と開かれました。大会には21カ国85人の海外代表と、広島デー集会に1300人、世界大会長崎には6000人が参加しました。

今年の大会では、米の一方的離脱により INF(中距離核戦力全廃条約)の失効が始まる、米・ロの核軍拡競争への懸念が高まっている状況の中で、核兵器のない世界を目指す声が世界の圧倒的な声であること、この状況を作り上げてきたのは世界の世論と運動であり、核兵器禁止条約を実現させた力が市民社会と諸国政府の共同であることが強調されました。

来年は被爆75年、NPT50年、再検討会議が開催されます。2020年を「核兵器のない平和で公正な世界」への転機とするために「ヒバクシャ国際署名」で核保有国に迫る世論と運動をつくることを確認されました。また、アメリカの平和運動団体が提起した原水爆禁止世界大会をニューヨークで開催するという構想は参加者から大きく歓迎されました。

世界大会開催期間に禁止条約批准が 25 カ国になったことが判明。唯一の戦争被爆国日本政府は禁止条約に背を向け続けています。「生きているうちに核兵器廃絶を」の被爆者の願いをしっかりと受け止め条約に署名する政府をつくる決意を固めました。

<参加者のアンケートから>

- ・ 「微力だけど無力ではない」の言葉に、私達の行っている署名は無駄ではないと思えたので継続していきたい。
- ・ 国民を守ると言っても、「力や兵器」では犠牲が出ると思う。
- ・ 日本全国、世界各地から様々な方の参加し、多くの活動が盛んにされていることを初めて知った。私達の署名活動から国際的な禁止条約に発展しており一人ひとりが声を上げ連帯していけば、世界をも動かす大きな力になると実感した。

## 9・26核兵器廃絶国際行動デー

2013年9月26日に国連総会で、「核軍縮ハイレベル会合」が初めて開催されたことにちなんで、国連は9月26日を「核兵器の全面的廃絶のための国際デー」と決めました。核兵器が人類に及ぼす脅威と、核兵器廃絶の必要性の認識を高めることを目的とした記念日です。

日時 ; 9月26日 12:15~13:00  
場所 ; 博多駅博多口西日本シティ銀行前

各地で行動を計画しましょう!

## 原水協再建・強化と学習交流会 「禁止条約の現状と展望」

日程 ; 10月5日(土) 14:00~16:00

会場 ; ちどりビル会議室 1

講師 ; 佐竹康行さん (日本原水協事務局次長)

「国際会議宣言」で提起された核兵器廃絶の今後の運動を見据え、草の根の行動を開くには原水協の強化が鍵です。

前日4日(金)午後 & 夜、5日(土)午前中に地域原水協で出張講座を開きます。希望されるのは早めの申込みをお願いします。

# 平和につながる実感！ Peace Meeting in NAGASAKI

昨年から、世界大会に福岡から参加した青年を集めて学び・交流する青年企画をはじめ、今年は福岡医療団労組や民青同盟福岡県委員会、福建労青年部や市職労など、様々な団体と協力して実行委員会を組織し、8月8日に「Peace Meeting in Nagasaki」と、福岡でのプレ企画を計画・実行しました。

実行委員会の会議では、今まで政治に関心を持ってこなかった人でも、何にかしらの引っ掛かりを感じてもらうにはどうしたらいいか、というところから丁寧に議論し、企画を練ってきました。

プレ企画(7月)では、世界大会参加者を中心に40名ほどが参加し、実行委員が「今の日本は本当に平和か」をテーマに講義を行ったのち、グループ討議を行いました。「今まで、日本は漠然と平和だと思っていたけど、段々と戦争に向かっていくように感じた」など、今までの認識を少しでも変え、日本の現状に目を向けるきっかけになりました。

8月8日当日の企画では、福岡市や大牟田市など、県内各地から50名を超える青年が参加しました。企画の中では、福岡医療団の豊田医師を講師に招き、この間の日本政府による戦争する国作り政策を大まかに解説してもらい、そのうえで、自分たちが平和を作っていくためにできる事をそれぞれ議論しました。そこからは「被害も加害も忘れない」や「今日の学びを忘れない、そして伝えていく」などが出され、自分たちが今まで学んできたことを周りに伝え、広げていくことが平和につながるという実感が交流されました。



Peace Meeting in Nagasaki に参加のみなさん

## 被爆証言集(英語版)を海外代表に贈呈！



フィリピンの代表に 新婦人の九条バンダナも合わせて！



ジュン・ハマモトさんに



スペイン代表のクロエさんに

F コープ労組に協力いただき「被爆証言集(英語版)」20冊を、県原水協10冊、F コープ労組10冊と分けて海外代表に贈呈しました。F コープ労組は閉会総会でノルウェー、スペイン、アメリカ代表などに。県原水協は9日夜の海外代表とのレセプション会場でオーストリア政府代表、ロシア、アメリカ、インド、リトアニア、フィリピンの各代表にプレゼントしました。アメリカのサン・クウェンティ刑務所教官で、折り紙のクラスを持っているジュン・ハマモトさん(千羽鶴を被爆者に贈呈)は「生徒たちにこれを使って原爆の愚かさ、非人道性を伝えます。日本人の友人たちにも広げたいので日本語の証言集をいただけませんか」と言われました。早速F コープ労組に依頼して日本語版を5冊準備していただきました。あわせて「被爆組写真」も一緒に送ってはどうかという案が出ています。日本原水協では『被爆組写真』を海外に贈る運動もしているので、みなさんもぜひ募金にご協力ください。

## 市民と科学者の集会 (7・28)

1987年から毎年全国を回って開催されていることを初めて知り、今の基地や核兵器をめぐる世界情勢と市民運動の役割などを知る機会となりました。

「九州・沖縄から東アジアの平和をどう構築するか」と石川捷治先生をはじめ、10人の講師陣が原発や核兵器、基地問題、朝鮮半島問題などを縦横に語られました。佐賀空港や築城、新田原が自衛隊と米軍の共同訓練地となり、米国の戦争拠点にされようとする現地からの報告。東アジアのASEAN共同体や東西ドイツの統一にも学んで、非核平和への道を探求している南北朝鮮の努力を、日本政府はアジアのリーダーとして支援することこそ役割ではないか。それが実現すると日本も、北朝鮮の脅威のためと軍事強化の必要性もなく、北東アジアのリーダーとして、アジアの平和と経済発展に貢献できると。世界大会に毎年参加され、核廃絶と朝鮮半島のうごきを熱く語る韓国の李俊揆さんの講座は大変印象的でした。(S・S)

**実行委員会では**・・科学者集会のまとめをしました。福岡方式で開催したこの集会を機会に「科学者と市民団体の連携企画」を年1~2回定期的に開くことを確認しました。核兵器や今の問題について学習講演会を企画し、原爆写真展も同時開催するという事です。

## 核兵器なくそう女性のつどい

8月8日の「女性のつどい」、9日の閉会総会、その後の「平和基金20周年記念交流会」に参加しました。

「女性のつどい」では被爆者の城臺美彌子さんが被爆体験を語られましたが、その最後に「アメリカの力による平和、日本の積極的外交も間違っている。核は、原発にも戦争にも絶対に使っては行けない。まずは批准を訴えます。」と発言されました。私達の「草の根の運動」の大切さを、改めて胸に刻みました。

嬉しかったのは、「高校生平和大使」の女子高生が、毎週日曜日に署名行動に取り組んでいるとの報告の最後に、「これからは私達に任せてください」と力強く言ってくれたことです。会場内の割れんばかりの拍手と声援の中、私も思わず「まかせたよ！」と大きな声で叫びました。(R・H)

## この夏の草の根の活動

### 署名・原爆展

被爆74年の夏、広島・長崎で世界大会開催中も全県各地で「核兵器のない平和で公正な世界」を求める草の根の活動が、暑い中で旺盛におこなわれました。その奮闘ぶりを一部ですが紹介します。

### 小郡市で原爆展 7月25日(木)~8月2日(金)

#### 小郡市保健福祉センターあすてらす

7月29日に24名程の参加者を得て、被爆者・被爆2世の方との懇談会を開催。坂田氏の4編の手記の朗読の後、1歳の時ナガサキで被爆された橋本氏、被爆2世の貫橋氏のお話を聞きました。朗読や話を聞きながら涙される方、大きくうなずかれる方等、核兵器をなくし平和な未来のための活動を今後も頑張っていく事を確認しました。

ヒロシマ・ナガサキの悲劇は絶対許すことはできません。再び繰り返される事が無いように、核兵器廃絶に向けて活動を頑張っていきたいと思いました。



### 福津市で

#### 7月13日; 平和コンサート

8月10日~12日; 市立図書館で「原爆展」 11日; 映画「西から昇った太陽」上映

「平和コンサート」は地域の平和運動でつながった人たちが中心になって開催。協力共同の広がりを感じました。

毎年開催し継続を感謝されている「原爆展」は、マンネリ化を克服する企画が必要と工夫を重ねていますが、来年はもう少し余裕を持って取り組みたいとの声が出ています。



### 久留米原水協で「核兵器のない未来のための原爆展」

#### 7月17日(水)~21日(日) 久留米市1番街ギャラリー

今回より「久留米 愛と平和の祭典ピースフル久留米推進協議会」に正式加入し原爆展を開催。市の広報等での紹介がありました。

21日には被爆証言と「日韓国際フォーラム」参加報告も予定していましたが、豪雨のため参加者が少なく残念でした。改めて報告会を開くことにしています。



## 新婦人早良支部で 「世界大会連帯」の署名行動

毎年世界大会に連帯して、8月3日、6日、9日に世界大会に参加しない会員たちを中心に署名行動に取り組んでいます。

今年は地下鉄西新駅前、星の原のスーパー前など人通りの多いところで行動し、130筆あまりが寄せられました。

## 柳川・みやま原水協で原爆展

8月1日～10日（毎年同じ期間）  
市内各公共施設6ヶ所で原爆展

同じ時期に開催するので、みんなで会場を分担・協力しています。

## 新婦人戸畑支部では 「原爆展」と「平和コンサート」

8月1日～6日 戸畑区役所

7日～11日 図書館

12日～15日 ウェル戸畑

高校生が描いた「原爆の絵」を中心に展示

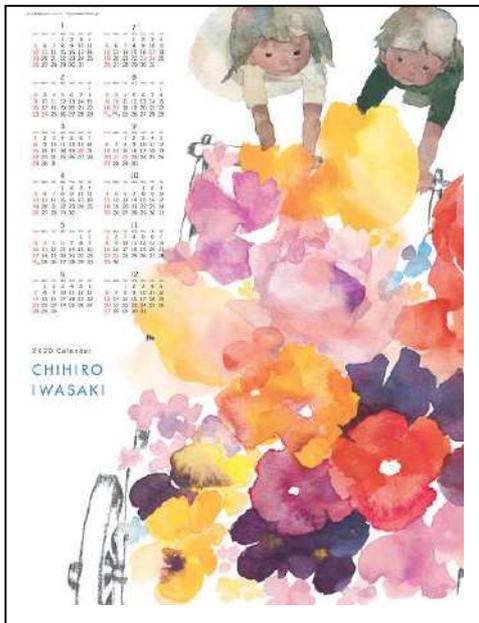
8月31日(土)「パネル展とコンサート」

- ・ 広島出身の方のお話とリコーダー演奏
- ・ 絵本ミュージカル
- ・ バイオリンとピアノ演奏
- ・ 紙芝居 ・ 合唱団の歌

など多彩な企画に78人が参加。子どもから大人までみんなが楽しみながら学びました。

この企画で「ヒバクシャ国際署名」の支部目標を超過達成！

## 2020年版ちひろカレンダー



1部 1400円+税（送料別）  
注文書（別紙）にご記入の上  
fax 092・432・8518まで。

## 秋の国連に届ける

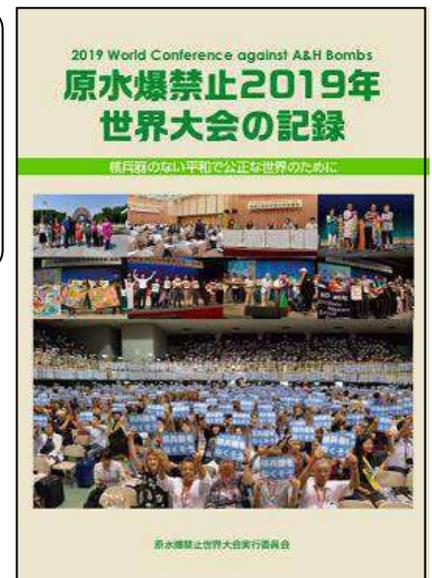
### 「ヒバクシャ国際署名」集約

**県原水協は9月15日(日)締め切りです**  
2016年4月から始まった「ヒバクシャ国際署名」は、これまで3回国連に届けていますが、今年10月に4回目の提出を予定しています。9月20日が中央連絡会の締め切りです。県は15日です。署名現物を届けてください。

## 世界大会記録集

注文受付中

- ◆大会の全容を収録
- ◆頒価1500円
- ◆申込は県原水協へ



## ノーモアヒバクシャ訴訟 裁判傍聴支援のお願い

9月24日(火) 14時30分 福岡高裁第1回口頭弁論

ノーモアヒバクシャ訴訟は厚労省の認定制度を被爆の実相に沿った、被爆者に寄り添った制度に変える運動です。

被爆者に冷たい国の姿勢の根本には、核兵器の使用を肯定するアメリカの「核の傘」依存と「戦争の犠牲は等しく受忍すべき」という国の誤った政策があります。被爆者は国が二度と核兵器の被害を招かない証と原爆被害への国家補償を求めています。

みなさんの傍聴支援は、裁判所が適正公正な判決を下すための力となります。多くの方の傍聴を呼びかけます。ぜひご参加ください。

## 学習資料が増えました

会員の協力で夏の平和関係放送分がDVDになりました。学習会などに活用ください。詳しくはお尋ねください。